会議記録書	
会議名	第４０回草津市図書館協議会
日時	令和　６年　２月２２日(木)　１４：００～１５:３５
場所	草津市立図書館　２階　会議室
出席者	岸本会長、奥村委員、木戸脇委員、田邉委員、内田委員、中瀬委員、新谷委員、松村委員 事務局（二井館長、加藤副館長、大西副館長、岸本主任）
傍聴者数	１名
記録作成者	図書館　岸本

１．開会挨拶

みなさんこんにちは。昨年度の南草津図書館２０周年記念事業に続いて、今年度は、草津市立図書館４０周年記念事業に様々取り組んでいるところでございます。

本日は、開館４０周年記念事業についての報告と、今年の１月に実施いたしました令和５年度、図書館利用者アンケートについての速報版の報告をさせていただく予定でおります。委員の皆様の忌憚のないご意見を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今年度最後の図書館協議会となりますが、任期満了に伴い、昨年９月１日から新体制として、４０周年記念式典への参列等々、皆様には活動していただいております。新たに公募委員として、田邉恵子委員、松村喬委員にメンバーとして加わっていただきました。両委員どうぞよろしくお願いいたします。

尚、本日欠席の吉田幹子委員におかれましても今期からの新委員でございます。再任の皆様も改めまして、任期２年間の間、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。簡単ではございますが、開会のあいさつとさせていただきます。（二井館長）

２．議題

（１）　草津市立図書館４０周年記念事業について

・１１月３日（木・祝）に草津市立図書館４０周年記念セレモニーを開催した。
・１１月３日（木・祝）に屋外読書スペースと新しい移動図書館あおばな号のお披露目を行った。
・１１月３日（木・祝）に図書館運営に長年協力してくださった団体に表彰を行った。
・１１月３日（木・祝）に一般向け講演会として、東京大学大学院総合文化研究科教授 酒井邦嘉氏による講演会「脳を創る読書」を行った。１００人を超える市民が参加した。
・１１月３日～５日間で、絵本と音楽のコラボ、常盤読書グループ松葉会さんによる手作り紙芝居「常盤の昔ばなし」、子ども向けと大人向けのおはなし会、ビブリオトークなど多くの企画を実施した。
・40 周年記念講演会は児童向け、一般向け、若者向けの計３つの講演会を実施した。
・児童向け講演会では、絵本作家さいとうしのぶ氏によるワークショップ「自分の名前で絵本をつくろう！」と絵本ライブを実施した。１００人を超える市民が参加した。

・中高生の実行委員が運営する声優朗読劇「太陽が痛いほどいっぱい」を実施した。中学生２人、高校生８人が実行委員として応募してくれた。劇作家の中野順哉氏の協力のもと、企画・広報・当日の進行・声優朗読劇出演者として、尽力してくれた。声優朗読劇には、バリトン歌手 高曲信和氏、声優 竹内宥貴氏　青木拓磨氏、フルート奏者 雨林美由紀氏に出演していただいた。１００名近くの市民が参加した。

・読書ポイント事業を実施した。市内の小中学生を対象にスタンプラリーを実施しており、抽選でトートバッグや缶バッジ、立命館大学でのものづくり体験などの記念品を用意している。スタンプは図書館および移動図書館、各学校の図書室に設置し、小中学生に図書館・図書室の利用促進を図っている。また、市内の公立小中学生全員（約８，５００人）に図書館の資料貸出券を配布している。

・大型移動図書館（わかくさ号）に加えて、小型移動図書館（あおばな号）を導入した。令和５年度３学期に市内１４小学校、２件のやまびこを２回巡回している。雨天中止した学校を除く、１３小学校で１，３３２人、１，９３８冊の貸し出しがあった。子どもたちに読書のきっかけを与えることができた。

・図書館アプリ「くさつ Lib-mile」について、７月１日～１月末の期間で、９３７ダウンロードとなった。

・長年愛されてきた絵本や人気絵本を５，４０６冊購入・更新した。それに加えて、絵本コーナーの壁面書架やカーペット、移動書架の更新や紙芝居架の更新を行い、子どもたちにより親しまれる環境づくりを行った。７月９日に、絵本コーナーリニューアル除幕式を実施した。同日の定番絵本の読み聞かせには多くの市民が参加した。

・当館では、図書資料の日焼け防止のために、窓のブラインドを下ろしていたが、UV カットフィルムを窓に貼付することで、ブラインドを上げた。その結果、図書館内がより明るくなった。

・読書環境づくりとして、屋外読書スペースを整備した。デスク・チェア・パラソル・ベンチを設置した。利用者の安全安心を確保するために、図書館防犯カメラを設置した。その他にも各種修繕を実施した。

・高校生と市議会議員との意見交換会で提案があった学習スペースを草津市立図書館および南草津図書館に設置した。学習スペース利用をきっかけに、学生が図書館を利用することを期待している。１月末時点で、累計３，３６２人が利用した。学習スペースをきっかけに新規図書館利用者が１７０人に増加した。

・就学前施設（こども園等）の保育士を対象とした絵本講習会を開催し、２９人の参加者に対し、図書館の司書が読み聞かせ等について指導を行った。

・こども園等が利用する団体貸出を対象に、季節や行事等の絵本を集めた「あおばなブック」を３１２セット（２，２９４冊）用意した。就学前の子どもたちが絵本等に触れる機会づくりに努めた。

・これら多くの事業を通して、従来の図書館利用者に加えて、新たな図書館利用者を獲得し、世を問わずより多くの市民が読書・本と出合う機会づくりに努めた。

【委員意見】

・読書ポイント事業での、小学校の図書委員が読書ポイントのスタンプを押すことを楽しみ、喜んでくれた。スタンプを集めることを目的に、学校図書館・図書館を利用する生徒が増えた。図書館利用の機会を創出してもらい、大変ありがたい。（奥村委員）

・雨天日に、移動図書館来校が中止になったことがあったが、今後も継続してほしい。（木戸脇委員）

・小型の移動図書館の利用が全国的に近年増加している。学校においてうまく利用してほしい。（岸本会長）

（２）　令和５年度図書館利用アンケートの結果について

・アンケートの実施期間は例年通り、１月年始開館日から１月末までであった。
・アンケート配布数は昨年度と比較して、１，０００枚程度増加した。「本館４０周年記念グッズ抽選応募券」の配布と同時に行ったことが、配布数の増加に影響したと考えられる。
・回収率は昨年度の９．５％と比較して、１５．９％と増加した。一昨年度の回答率が１５％であったため、昨年度の回収率が低かったと分かる。
・電子回答の割合は、昨年度の４８．５％であり、若干減少した。回答者数の増加による影響であると考えられる。
・回答者の割合は４０代、５０代、６０代、７０代が２０％ずつで、全体の８割を占めている。利用者の分布とおおむね合致する。１０代では、２７人が回答した。高校の図書館にもアンケートを設置した効果であると考えられる。
・「満足」、「おおむね満足」の回答を足した数を「満足度」として、各質問項目の中で最も満足度が高い項目は、問３－１の「職員の対応」であり、９０％であった。
・各アンケート項目の満足度は、例年通りであった。
・本館４０周年記念事業の総合評価は５９．６％であった。昨年度の南草津図書館２０周年記念事業の満足度４５％と比較すると高かった。図書館協議会で頂戴した御意見を踏まえ、広報の強化やアンケートへの事業内容を明記する等の対策を行った結果、市民から高い関心を持続的に得ることが出来たからであると考えられる。
・「図書館両館のサービスについての総合評価」は、７９．３％であり、昨年度の７４％と比較して、向上した。自由記述にも寄せられた意見が多く、図書館への期待が感じられる。
・自由記述の意見の中で最も多かったのは「WEB 上で在架資料の取り寄せがしたい。」であり、５０件以上あった。次に多かったのは、「読書スペースに椅子をもっとたくさん置いてほしい、ゆったりと座れるような空間を創ってほしい。」であり、２０件以上あった。そのうち、3分の1は南館への意見であった。本館は４０周年事業で読書スペースの拡充を実施したので、利用者への広報が引き続き必要である。
・「未所蔵資料のリクエストを WEB で手続したい」という希望が昨年よりも増えた。３０代～７０代まで広い年代から寄せられた。WEB を利用した手続きが幅広い年齢層に浸透していることがわかった。

【委員意見】

・４０周年記念事業の総合評価は、事業ごとの満足度であるか。（内田委員）
→事業ごとではなく、図書館アンケートにおける４０周年記念事業全体の満足度である。
・こどもの満足度を把握するようにしてほしい。（内田委員）
→中高生向けのイベントも実施しており、実行委員である中学生１年生～高校３年生にインタビューも行ったところ、満足度は高かった。
・提供者として、社会活動に参加する機会となったと思う。（岸本会長）
・１０代、２０代の利用者率が少ない。１０代、２０代がほとんどの時間を費やすのは、学校・塾・SNS である。本が好きであっても、本を読む時間がない。学習スペースを利用することをきっかけに、図書館の利用を推進してほしい。（田邉委員）
→学習スペースを利用する学生の目に触れるように、本を展示している。また、高校連携でＰＯＰ交換等も実施している。
・レファレンスサービスの満足度が高いが、認知度が低い。認知度をあげる働きかけが必要である。（田邉委員）
・レファレンスサービス認知度が低い。学校で端末を配布しているので、ほとんどの情報を web で調べている。フェイクニュースに振り回されないよう、情報を精査する一つの方法として、図書館のレファレンスサービスが利用できることを広報してほしい。（奥村委員）

・レファレンスサービスの認知度は多くの図書館で低い。欧米においては、何かを調べる手段は、基本的に図書館利用である。（岸本会長）

３．令和６年度図書館事業計画について

草津市立図書館では、開館４０周年を契機に読書のまち推進事業に取り組んだ。令和６年度も継続していく事業については、実施結果を検証するとともに、アンケートや自由意見も参考にしながら、サービスの改善や見直し、拡充に努めていきたい。

令和６年度に、草津市の計画である、草津市子ども読書活動推進計画と草津市図書館運営計画の期間が終了することから、市の政策として、この二つの計画をあわせたものを核とした市域全体での読書活動推進計画として「（仮称）読書のまち推進計画」を策定する予定である。図書館協議会委員の皆様に、草津市図書館運営計画（後期）の評価と課題について御審議いただき、新たな計画策定の方向性について諮問したい。

４．意見交換・質疑

・なりたい将来像を想像できれば、勉学に対する姿勢がよくなる。（内田委員）
・学習スペースについては、口コミで広がりにくい。（内田委員）
・玉川中学校美術部の作品展示を南草津図書館でしている。作品を発表する機会があれば、生徒のやる気も上がる。今後もそういった機会を提供してほしい。（奥村委員）
・特定の事柄について、学生が調べたいと思ったときに、迷わず図書館が利用できるよう環境づくりをしたい。（木戸脇委員）
・高齢者の高利用率は納得している。人生百年時代、何歳になっても学習をしていく必要がある。情報社会において、フェイクニュースに振り回されないようにしなければならない。ＡＩの危険性にも目を向けるべきである。その一方で、視力が悪い人間には、AI 音声認識サービスは非常に便利であり、生活に欠かせない存在になっている。（松村委員）
・市や県の観光担当部署の多くが月曜休みである。人口減少社会に適応していく必要がある。どのような社会・状況においても、図書館の在り方は重要である。（松村委員）
・草津市のとあるブックカフェにおいて、読書をしている人はほとんどおらず、大半の利用者がおしゃべりをしている。本を読む環境として、図書館をアピールしてほしい。（田邉委員）

→草津市立図書館は、４０周年記念事業の一つとして、屋外読書スペースを実施している。天気の良い日には満席になることもある。図書館の一番の役割は図書資料の収集であるが、今後とも可能な限り、より良い読書環境の確保に努める。

５．その他

次回、第４１回草津市図書館協議会は令和６年６月末から７月初旬を予定している。

（終了　午後３時３５分）